



ラフカディオ・ハーンの 日本人観に脱帽！

SAM広島支部長
 (株)ロジタント 代表取締役
 吉田 祐 起



今年7月のSAM東京支部例会で「二宮金次郎の一生」の著者・三戸岡道夫先生（本名：大貫満雄氏）の「現代から見た二宮金次郎～偉大な実業家からいま何を学ぶ～」と題した貴重な講演を拝聴しました。講演後の質疑応答の折でした。長期化するデフレ経済を洞察している私は、21世紀の日本人の生き方文化として、「身の丈に応じた生き方」と「モノからココロを大事にする生き方」を、日本人固有の生き方文化として世界に発信していくことを提唱しています。そうした生き方を二宮金次郎の精神に結びつけて講師先生に共感した発言をしました。

その折、大阪支部所属の重長信雄・SAM日本チャプター副会長さん（グローバル・コミュニケーション・コンサルタンツ・グループ主宰）から貴重なご発言がありました。「…かのラフカディオ・ハーンが書いた論文の一節に、『日本人は欧米輸入の思想でリッチになると脆弱な国民になる…』と喝破している…」という趣旨のお言葉でした。かねて同意義のことを思い続けてきていた私は、その言葉に素早く反応しました。翌日、重長さんにその言葉の出所を確認しました。すぐさまファクスのご返事をいただきました。ラフカディオ・ハーンの著書「Japan and the Japanese」と題する本から下記の英和関連記述の抜粋を頂戴しました。曰く、「In the case of Japan, I think, there is possible danger, the danger of abandoning the old, simple, healthy, natural, sober, honest way of living. I think Japan will be strong as long as she preserves her simplicity. I think she will become

weak if she adopts imported ideas of luxury.」（日本に関して危険なことは、古来のもの、簡素なもの、健全で自然な生活方式を捨て去る恐れがあることだ。さらに考えるに、日本はその簡素さを保持する限り強固であり続けよう。反対に日本が西欧輸入の華美の思想にかぶれば脆弱となろう）

ラフカディオ・ハーンの洞察力は言い当てて妙なり、と残念ながら認めざるを得ません。日本人の自殺者数が5年連続して3万人を突破しました。日本人の男女合同では世界第二位、女性だけでは世界第一位、男性だけでは世界第三位の自殺大国です。欧米先進諸国も発展途上国も日本よりはるかに下位です。貧富の差が歴然とされるこれらの諸国を尻目に、日本人がどうして…？ 物質的欲望を追求し過ぎて、精神的なものを忘れた日本人の一面か、それとも、デフレ経済を前にした中産階級意識ゆえに身の丈に応じた生き方ができなくなったからか…、と胸が詰まります。

史上空前の高失業率の最中であって、一方では人手不足現象が起きています。3K職業は嫌だ、さりとて、IT技術者のような頭脳職業もしたくないといった若者の風潮が気になります。移民外国人労働者がそれらにとって代わろうという兆しが見える昨今、それではドイツの二の舞いになりかねません。このままでは日本人は三流国民、四流国民になれ下がる！ といった危機感を抱くのですが、思い過ごしでしょうか？ 小泉八雲のあの痛烈な言葉が脳裏から離れません。